

S.G. Report

【白熱！英国流ディベート体感セミナーin 熊本】

～パラメンタリーディベートが開くグローバル人材への扉～



《日 時》 平成27年10月7日（水）16：00～ 本校会議室

《参加者》 生徒34名、一般11名

《場 所》 本校4F会議室

《講 師》 大阪府立大学 助教 中川 智皓 先生

《実績等》 東京大学英語ディベート部を設立

大学生英語ディベート世界大会 ESL 準決勝進出(日本最高記録)

東京大学総長賞 受賞

文部科学省助成事業による即興型英語ディベートを主宰

灘、開成、筑波大学付属駒場等にてセミナーを開催

セ ミ ナ ー 内 容

I 中川先生よりモデルディベーターの紹介

英国のトップディベーター4人のそれぞれの経歴を紹介された。ディベーターたちは数々のディベート大会で入賞や優勝をしているばかりではなく、ディベートの経験を通してディベート大会のジャッジを務めたり、外交官として活躍されたりしている。



II 中川先生の自己紹介

大阪府立大学の助教として勤務されている。自身の大学時代に始めた即興型英語ディベートでの経験が、今の職に就いて国際会議の場でも活かされていることをスライドを用いて自己紹介された。

III パラメンタリーディベートのルールについて

- 与えられたお題に賛成側の意見を言うチームをガバメント（Government）、否定側の意見を言うチームをオポジション（Opposition）と言い、ディベートはガバメントから始める。
- お題が与えられてからディベートをするまでの準備時間は15分のため、如何に日ごろから環境のことや世界で起こっている出来事などに関心を持って過ごしているかもディベートをするうえで大切なことである。
- ジャッジは自分自身の考えではなく、それぞれのチームが述べる内容に納得をした方を勝ちとする、などといったルール説明があった。

Ⅳモデルディベート

テーマ “Economic growth should be prioritized over environmental protection.”

『経済成長は、環境保全より優先させるべきだ』

Ⅴディベートのポイント

• 立論

立論をつくる上で『サインポスト』を作ることが大切である。サインポストは見出し、題名のことである。サインポストを作ることによってディベーターがジャッジに何を伝えたいのか明確に表すことができる。

• 現状分析

現状を述べ、そのあと自分の考える政策を取ると、どのように変化するのかと、それぞれの現状分析することで議論が混乱すること避けることができる。

• AREA について

AREA とは Assertion (主張) Reason (理由) Example (例) Assertion (主張) のことである。こういった手順で主張をしていけばよいのか、と考えたとき、AREA を考えた主張づくりをすることで、より一層説得性を持つことができる。



Ⅵアクティビティ (AREA)

アクティビティ① “Cats are better than dogs”

アクティビティ② “Being girls are better than being boys”

2つのことについて参加した生徒たちは2～3人のグループを作り、それぞれのアクティビティへのAREA づくりをした。またトップディベーターたちは生徒との間に入り、活動をより活発にした。グループ活動後は作ったAREA の発表をする機会があり、数名の生徒が発表した。



ⅦQA セッション

トップディベーターたちが生徒の間に入り、かしまることなくカジュアルにディベーターたちに英語で質問をする時間が設けられた。特に2年生の生徒たちは熱心に質問し話を聞いていた。

ⅧClosing